



日本共産党市会議員

2017年05月10日

庄本けんじ

携帯 090-6665-9401

議員控え室 0798-35-3368

活動ニュース

核兵器禁止条約締結の展望開く

被爆者は核兵器を禁止し廃絶する条約をすべての国に求めます

核兵器を捨てる理性と勇気を発揮していほしい

1945年8月6日、9日。広島と長崎に投下された2つの原子爆弾。あれから70年を超える年月が過ぎたいまも、核兵器は地球上に存在します。その数、1万数千発。保有している核兵器を、一体どうするつもりなのか。ヒバクシャは訴えています。核兵器をすべて捨てられない限り、いつ、また同じ悲劇を繰り返すことになるのか、恐怖を取り除くことはできない。核兵器を捨てる理性と勇気を発揮していほしい。



生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したい！被爆者の切なる思いです

被爆者は、原爆投下から70年を過ぎた今も、後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、生き抜いてきました。「ふたたび被爆者をつくるな」と声を上げ続けてきました。被爆者は、いま、平均年齢80歳を超えています。そこで、被爆者は訴えています。「後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望し」「核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます」。被爆者は、いま、核兵器禁止条約を結ぶことを求める、国際署名を呼びかけています。

核兵器禁止条約の国連会議！条約案提案へ

核兵器の禁止から廃絶へ運動大きく

3月27～31日、ニューヨークの国連本部で核兵器禁止条約交渉会議（第1会期）が開かれました。この会議は、被爆者をはじめ、圧倒的多数の世界のひとびとが長年にわたって求め続けてきたものであり、歴史的な会議となりました。

5月中には核兵器禁止条約の文案が示され、6月15日から始まる第2会期で審議・採択される予定です。

核兵器禁止条約は、核兵器廃絶への歴史的に活気をなす大きな一歩となるものです。核兵器の禁止から廃絶へと運動をさらにひろげます。

交渉会議の第2会期にも、「ヒバクシャ国際署名」が提出されます。交渉会議のホワイト議長は「6月にはもっと多くの署名を届けてください」と「ヒバクシャ国際署名」に期待を寄せています。核兵器禁止の声を署名に託してください。

原水爆禁止西宮市協議会 国際署名に取り組む

西宮市に事務局を置く原水爆禁止西宮市協議会も、ヒバクシャ国際署名を各団体に送付しています。

西宮市も、市長が署名し、職員に署名の協力を呼び掛けています。昨年の6月議会で日本共産党西宮市会議員団が、ヒバクシャ国際署名について質問し、その答弁で明らかにされました。

ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名

被爆者は核兵器廃絶を心から求めます

署名の訴えを転載します

人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。人類は、生物兵器、化学兵器について、使用、開発、生産、保有を条約、議定書などで禁じて来ましたが、それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月よびかけ被爆者代表：坪井直、谷口稜暉、岩佐幹三（以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員）、田中熙巳（日本被団協・事務局長）、郭貴勲（韓国原爆被害者協会・名誉会長）、向井司（北米原爆被害者の会・会長）、森田隆（ブラジル被爆者平和協会・会長）、サーロー・セツコ（カナダ在住）、山下泰昭（メキシコ在住）

<この署名は、国連に提出します>

